

◆授業設計のポイント◆

- ・単元を構造的に捉え、深い学びを実現する手立ての工夫
- ・対話的な学びを通して、思考の広がりや深まりが生まれる手立ての工夫
- ・学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

保健体育科学習指導案

学級 2年3組 (男子18名 女子17名)
場所 伊敷中学校 体育館
指導者 教諭 山之内和彦

1 単元 球技 ゴール型 「バスケットボール」

2 単元について

球技は、ゴール型、ネット型及びベースボール型などから構成され、個人やチームの能力に応じた作戦を立て、集団対集団、個人対個人で勝敗を競うことに楽しさや喜びを味わうことのできる運動である。

本単元は、中学校学習指導要領保健体育科における体育分野の内容「E 球技」のゴール型として分類することができるバスケットボールを取り扱う。バスケットボールは、攻防の切り替えが早いため運動量も多く、ボールコントロールや瞬時に変化する場面に応じた判断力を高めることに適した教材である。また、パスやドリブル、シュートができたときや作戦がうまくいったとき、チームの力が集約されて勝利したときに喜びを感じることができ、練習やゲームを通して役割を分担し合ったり励まし合ったりと運動の楽しさを味わわせながら責任感や協調性を高めるのに適した教材である。本学級の生徒は、一年次にバスケットボールを学習している。その中でゴール型の目標に上げられている、基本的なボール操作を基に空間を利用した攻撃の仕方を学習してきた。また練習と練習の間や振り返りにおいて、話し合いの時間を設定し、自己の課題の発見や解決に向けて考えたことを、他者に分かりやすく伝えられるように、ホワイトボードを使いながら、チームの課題や練習法・作戦を効率よく仲間と共有することで話し合い活動を深めてきた。

指導にあたっては、1時間目のオリエンテーションで単元構造図を提示し、生徒に学習のねらいや進め方の見通しをもたせるとともに、単元前レポートを活用してバスケットボールの特性や歴史、ルール、また技能や戦術、練習方法について確認する。学習Ⅰでは、基礎的・基本的な技能（ボール操作）を習得するためのゲーム（基礎技能向上ゲーム）を設定する。学習Ⅱでは、コートや人数に条件をつけたゲーム（課題設定ゲーム）によって、チームで攻め方や守り方を決めて、身に付けたボール操作の技能を活用し、ボールを持たないときの動きを理解できるようにする。振り返りでリフレクションカードを活用し、チームや個の課題や仲間への気付きなど、根拠をもってまとめられるようにさせたい。

さらに指導全般において、知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と運動の技能の往還関係の確立を目指した学習を展開していく。

3 単元の目標

- (1) 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、バスケットボールの特性や成り立ち、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができる。

(知識及び技能)

5 深い理解に至った生徒の姿

知識の理解を基に運動の技能を身に付けたり、運動の技能を身に付けることで一層知識を深めたりするなど、知識と運動の技能を往還させながら、基本的なボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。

6 本時の実際（9/12）

(1) 題材 球技 ゴール型 「バスケットボール」

(2) 目標

- ① 基本的なボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができる。
(知識及び技能)
- ② チームや個の考えを分かりやすく他者に伝えることができる。
(思考力, 判断力, 表現力等)

(3) 授業設計の工夫

ア 単元を構造的に捉え、深い学びを実現する手立ての工夫・・・**研究の視点1**

構造図を提示し、知識と技能の関係性を意識させ、具体的な学習内容と学習過程について見通しを持つことにより単元の成り立ちを理解させる。単元の成り立ちとしては、知識・技能の習得を主なねらいとする学習段階と、その活用をねらいとする学習段階があることを理解させる。

イ 対話的な学びを通して、思考の広がりや深まりが生まれる手立ての工夫・・・**研究の視点2**

話合いの場面において、考えを可視化して共有したり、整理したりする手立てとしてホワイトボード上でマグネット等を動かしながら、他者にわかりやすく根拠をもって伝えられるようにする。さらにチームを巡回しながら、生徒の考えの理由を問うような発問（声掛け）を行い根拠の確認をする。また、動きをタブレットで撮影することによって、後で自分たちの動きを映像で確認し合いながら意見交換できる環境を設定し、より対話的な学びを深めさせる。

ウ 学習プロセスを見通し、振り返る活動の充実を図り、主体的な学びを実現する指導の工夫

・・・**研究の視点3**

課題を発見し、追究活動を経て、自分なりの答えを導き出す一連の学習プロセスを見通せる簡潔で分かる導入を行う。学習課題の提示の際は、「内容目標」と「行動目標」を伝える。「内容目標」は本時の授業で理解する知識や技術、イメージする事柄等を伝え、「行動目標」は「汎用的な資質・能力ルーブリック」につながるものにして、汎用的な資質・能力の育成を図る。振り返りにはリフレクションカードを活用し、生徒が自分の内面と向き合い、自分自身の考えや学習、成長、実践に気付くように導きたい。

(4) 重点的に取り組む汎用的な資質・能力

論理的思考力レベル3

「自分の考えとその根拠や理由を分かりやすい言葉や方法を用いて説明することができる。」

例) 「僕は〇〇だと思います。〇〇は△△ということが言えるからです。」

【子供の姿】

- ・ 話合いの中で、言葉やホワイトボードを活用して、思考を可視化し、他者に分かりやすく説明しようとする姿。
- ・ 話合いの中で、根拠や理由を明確にして他者に自分の考えを伝えようとする姿。

【手立て】

- ・ 考えを言葉だけでなく、可視化して共有できるようホワイトボードとマグネットやタブレットで撮影した映像を準備し、動きを確認し合いながら考察させる。
- ・ チームごとに話合いを行う中で、自分の考えを説明する際に根拠として活用（提示）できるよう、チーム全員分の単元前レポートと実技の教科書を準備しておく。

(5) 展 開

過程	時間	学習形態	学習活動	○指導上の留意点 ◎評価 ※授業設計の工夫
準備 準備運動 健康観察	8分	一斉	<p>1 準備, 安全点検をする。</p> <p>2 準備運動を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ランニング ・ラジオ体操 ・補強運動(ライン鬼ごっこ)を行う。 <p>3 あいさつ・健康観察をする。</p>	<p>○ 場の安全を確認する。</p> <p>○ 仲間と交流し, 自他の心身の状態に気付かせながら, 準備運動と補強運動ができるようにする。</p> <p>○ 欠席者, 見学者を把握し, 生徒の健康状態を観察する。</p>
課題追求 練習 思考 診断 評価	34分	一斉 チーム	<p>4 本時の目標と学習の流れを確認する。</p> <p>《内容目標》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>ゴール前での攻防でゴールを奪うには, どのようにチームで連携してプレイすればいいだろうか。</p> </div> <p>《行動目標》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>動きの中で気付いたことを, ホワイトボードや言葉等を用いて根拠や理由をもって説明することができる。</p> </div> <p>5 前時に行った3対3を撮影した自分たちの映像を見て, 気付いたことを話合う。</p> <p>(攻撃に視点を当て, 考える。)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>気付き</p> <p>「相手にマークされるとパスが繋がらない。」 「コートを広く使えず固まっていた。」 「ドライブインのプレイでシュートチャンスを作れていた。」 「声掛けができていた。」</p> </div> <p>6 チームでゴールを奪う方法(戦術)を考え共有する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>納得</p> <p>「カットインを使ってみる。」 「空いたスペースへ走り込む。」 「フェイクングを使ってドリブル突破。」</p> </div>	<p>○ 本時の学習の目標や流れを理解させ, 学習の見通しをもたせる。</p> <p>※ 単元構造図で学習内容や流れ, 取り組むべき課題を明確にして課題を設定しやすくする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点1</div> <p>○ これまでの学習を想起させる学習資料(単元前レポート・実技の教科書)や映像などを提示することにより, 活用できる動きや場面を予想しやすくする。</p> <p>※ 気付いたことを言葉だけでなく, 可視化して共有できるようホワイトボードを準備し, より活動を具体化したり動きを確認したりしやすくする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点2</div> <p>※ チームを巡回しながら, 考えの理由を問うような発問(声掛け)を行い根拠の確認をする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">研究の視点2</div> <p>◎ チームや個の考えを分かりやすく他者に伝えることができているか。</p> <p>○ 攻撃の際のボールを持たないときに得点をねらってゴール前の空いている場所に走り込む動きを意識させ, ドライブインやカットインプレイ等, 変化のある攻撃を展開できるように助言する。</p>

		チーム	7 戦術を基に2対2+1の攻防を行う。	○ 数的有利の状況で有効な攻撃の仕方を考えさせる。 ◎ 基本的なボール操作とドライブインやカットインプレイ等の空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができるか。
		一斉	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">意志</div> <p>「戦術を使うことで、攻撃が優位になる。」 「個の特徴をもっと生かし、チームの連携も高めたい。」 「基本的なボール操作の精度をもっと高めたい。」</p>	
			8 3対3のゲームを行う。	○ 1回の攻撃のパス・ドリブルに制限を設け、早い展開でシュートに結びつけるようにする。 ◎ 3対3のゲームで、工夫してゴールを奪う方法を考え、攻防することができるか。 ○ ゲームのないチームは、審判・得点板・撮影等を行わせる。
整理運動		一斉	9 整理運動をする。	○ 整理運動で心身をリラックスできるようにする。
評価・反省	8分	個人	10 本時を振り返り、評価・反省を行う。	※ リフレクションカードを用いて「内容目標」と「行動目標」について振り返り、次時の学習へとつなげられるようにする。 自己やチームの振り返りを行うとともに、全体で考えを共有する時間も設ける。 研究の視点3
		チーム		
		一斉		
		一斉	11 次時の学習内容を確認する。	○ 次時の学習内容や目標を伝え、更なる学習意欲を喚起する。
健康観察			12 健康観察、あいさつをする。	○ 生徒の体調を確認し、後片付けをする。

(6) 評価

- ① 基本的なボール操作と空間に走り込むなどの動きによってゴール前での攻防をすることができたか。
(知識及び技能)
- ② チームや個の考えを分かりやすく他者に伝えることができたか。
(思考力, 判断力, 表現力等)